

# 若者の製造 年金問題

# 業離れ食い止めと への本格的着手を願う

伊藤 澄夫 伊藤製作所社長  
中京大学特別荣誉客員教授

という話題で持ちきりだが、年金とは本来、個人と企業が納めた社会保険料を返してもらうだけの制度のはずだ。ところが日本は今日、国家予算より多額の年金、120兆円を支払っているが、かねてより年々減少する若者が支払った掛け金を、そのまま受給者に回すという最悪の流れとなっている。

どこの独裁国家にも言えることだが、日本は戦時中、大本営は終戦間際まで国民に偽りの情報を流し続け、何百万人も兵士と国民が犠牲になり、世界の最貧国にまで陥れた。大本営発表「10月×日、〇×海戦において我が海軍は敵空母三隻を撃沈し、100機以上の航空機を撃破した。一方我が軍の被害は軽微なり」などと終戦間際まで騙し続けられたのだ。国民は勝ち戦を信じ士気を高めていたが、2発の原爆を落とされやっとなげ戦がわかったのだ。これと同じことが年金でも行われている。

年金問題の発端には、年金制度が発足してしばらくは定年退職者に対する年金の支払いがほとんどなかったため、蓄積された巨額の

国家のさらなる発展や、経済そして国防において、人口減が進んでいる日本や韓国は、国を挙げてもっと危機感を持つ必要がある。

2019年の日本の出生数は90万人を下回り、団塊世代の260万人台と比べ3分の1となった。私は、これにより製造業離れがますます広がることを懸念している。

ご存じのように日本は長年、財政赤字に苦しんできたが、もしその上製造業の衰退と後退で貿易赤字になれば、世界からの信用・信頼は見る影もなくなるであろうし、最貧国になることもあり得る。

現在、自動車や工作機械、特殊材料は言うに及ばず、ジャパンブランドの食料品など幅広い商品を輸出しているが、日本の強みとは何だろうか。金融や軍事力、資源でもなく、食料や原材料、燃料はほとんど輸入品で賄われている国なのだ。

日本が外貨を稼げなくなり国家の信用が地に落ちれば、輸入枠は制限され、輸入価格も一気に割高になる。したがって、先進国型の生活ができなくなることを覚悟す

る必要がある。悔しいことに日本が世界で優位に立っているのは、現在モノ作りだけである。国民は世界に優位を持てる事例をもっと増やす努力を忘れてはならない。

過去より現在まで、世界が日本を高く評価する主な理由は「モノづくり力」と「日本国民の教育レベルと民度の高さ」であろう。全国民が製造業に関わる必要はないが、モノづくり国家として今後とも年々発展することが、日本が先進国を維持していくための絶対的な条件である。日本のお家芸であるモノづくりにおいて、世界をリードし続けることをおろそかにしたら日本の将来はない。

このような意味合いから、日本の製造業に対する若者離れは、国家の滅亡につながると言っても過言ではない。若者が製造業を見下し、近隣諸国に後れを取れば、日本は先進国から脱落することだってあり得る。双子の赤字が続けば経済は冷え込み、世界から信用を失えば株は大暴落し、企業は大幅なりストラに走り、いずれ若者が就職することすら困難な貧困国家

年金資金を無駄で不要な建物や施設の建設に、湯水のように散財したことが挙げられよう。

建設費だけではない。今や不要と思われるこれらの施設に対する年間の維持費は膨大なのだ。さらに、金利の低下やデフレの定着、資産運用の失敗が追い打ちをかけた。にもかかわらず歴代の社会保険庁長官の責任を一切問わないのは、日本国民の温和な性格のためだろうか。

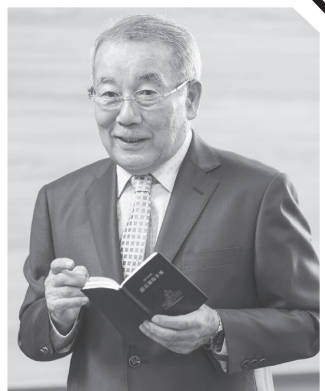
年金の年間支払い金額が国家予算より多額である実態を鑑みれば、国家予算の一部を年金に回す程度では焼け石に水だろう。また、消費税の収入は福祉に充てると言うが、これもまやかしに過ぎないと思っ

## いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任。現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。

(社)日本金型工業会・副会長、国際委員長を歴任。中京大学大学院ビジネスイノベーション研究科客員教授、国立ソウル科学技術大学校金型設計科名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。

2017年4月春の叙勲「旭日単光章」受章。著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのすごい親父力経営』がある。



国家のリーダーは今こそ悲しき実態を正直に説明し、国民に謝罪するべきだ。同時に将来を通じ、次世代の若者が安心できる社会保険システムを再構築しなければならぬ。

民間に任す方法もあるのではないか。「国家がよみがえり、若者のためであれば、我々の年金は辞退

となるだろう。

昔ながらの町工場のような3Kと呼ばれる製造業は今や淘汰され、魅力的な職場へと変貌している。外貨収入を減らさないためにも、日本人が得意とするモノづくりを発展させることに目を向けなければならぬことを理解していただきたい。

現在、多くの製造業には最新の設備と匠の技を持つ技術者が多く存在する。次の世代の若者に技術の継承をするのは今しかない。ニッポンの製造業の後退は天下の一大事なのだ。日本独自の技術を、「3年ビザ」で就労する漢字が理解できない外国人に任せているようでは、モノづくりの経験や技術の継承と蓄積ができるはずもないし、近隣工業国の後塵を拝することとなる。

次世代を担う優秀な若者のモノづくりでの活躍を切に期待したい。

## 正直な説明が第一歩

年金問題も危惧される。少子高齢化により、高齢者の年金財源確保のために若者の負担が大きくな